

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274202528		
法人名	医療法人財団 百葉の会		
事業所名	グループホーム百葉清水浪漫館 2階		
所在地	静岡県静岡市清水区高橋2丁目9番15号		
自己評価作成日	令和4年3月4日	評価結果市町村受理日	令和4年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&jiyosyoCd=2274202528-00&serviceCd=320&type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和4年3月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

湖山医療福祉グループ理念である【自らが受けたいと思う医療と福祉の創造】を実現すべく、日々お客様と向き合っています。一向に終息をみないコロナウィルス感染症に対しては、感染防止策として様々な制限を設けている関係で、お客様にはご不便をおかけしているかと思えます。しかし、その中でもすこしでも季節感を味わって頂けるよう、職員も試行錯誤で企画を提供している部分は是非見て頂きたいところです。朝夕の食事もデイサービスの栄養課が調理するものを提供するようになってから、格段に皆様の食事摂取量が増えたことは、美味しい食事である何よりのお褒めの言葉と捉えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

誕生日にはリクエストメニューでお祝いするとともに、向かいの花屋さんで好みの花を選んでもらってプレゼントするといった取組が定着するとともに、「誕生会」ではなく「誕生日会」で一人ひとりの向けた企画としていることが、理念「自らが受けたいと思う医療と福祉の創造」を体現しているといえます。家族から届いた大量の梅では、みがく人、ヘタを取る人、楊枝で穴をあける人と、皆でそれぞれの役割を果たしながら梅ジュースを作り、七夕では生竹に利用者の願いを吊るして七夕ランチ(卵や野菜を使って星や天の川、笹を摸したもの)と水ようかんを味わうなど、外のコロナ禍など嘘のように季節を感じる穏やかな日々が流れています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼にて、理念とこやまケア行動指針の唱和を実施。こやまケア行動指針については毎月1箇条をピックアップし、様々な場所に掲示し、月末に振り返りのアンケートを実施している。	朝礼の唱和と理念を毎月ピックアップしての掲示、振り返りアンケートによる取組を以て浸透を図るとともに、利用者への日々の関わりの中の一つひとつに「感謝」や「思いやり」「和合」が暗示されていて安心な態勢にあります。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度もコロナ禍ということで運営推進会議には地域の方をお招きしていない。しかし、少しずつではあるが、近所のお店への買い物や、人が密にならない場所などを選んで外出する機会を増やしている。	現在のような状況では交流は難しいものの、利用者のお誕生日プレゼントの洋服やお花、ケーキやお菓子は近隣の店舗での買い物で、日頃の感謝を示しています。またコロナ終息後は、隣の畑の一区画を借りて収穫体験をしたいとして、今は眺めて楽しんでいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	併設のデイサービスのお客様から入居相談や緊急短期入所のお問い合わせなどは増えてきている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度もコロナ禍ということで運営推進会議には地域の方をお招きしていないが、日常報告や事業所としての取組み等、細かく報告させて頂いてきた。	新型コロナウイルス拡大防止として書面開催としています。職員のみでまとめた2ヶ月分の活動内容は詳細で、写真も添えてメンバーに送っています。メンバーに会うことはありませんが、地域情報は地区の班長が回覧板の中身を届けてくださっています。	郵送の中には「意見シート(FAX返信)」を同封するか、定期的に電話を入れ、関係が途切れないようにすることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	書類提出や相談事は必ず行政の窓口を訪問するようにしてきた。担当の方にも所長の名前を覚えて頂き、逆に制度に関する質問のお電話を頂いた経験もある。	昨年、市役所に相談にのってもらえ実現した「こあがりスペースを活用した」短期入所は現在も稼働中で、地域の役に立っています。静岡市からはガウン(防護服)が届いているほか、感染症をはじめとする行政情報は「静岡市同報メール」配信で確認しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯という意味で20:00以降は玄関を施錠している。研修や勉強会を通じて、身体拘束をしないケアを理解し実践している。事業所として身体拘束0宣言を掲げている。	身体拘束が必要な症状のある利用者は現在いません。身体拘束適正化委員会では、不適切ケアの見直しやセンターマットの適正について協議が成され、記録からは介護職の本分について正したり、立場や役割に気づいてもらえる機会となっていることが覗えます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修、勉強会等で学ぶ機会を設けている。また、少し口調に疑問を感じる職員がいれば都度面談を取って早期是正に取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に成年後見人の方とお客様の件で関わることは多々あるが、自立支援事業や後見人制度を学ぶ機会は設けられていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約関連は全て所長が行い、不安や疑問が残らない契約を心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関口にあるご意見箱と年に1回の顧客アンケートでご意見・ご要望を頂くようにしている。家族会も企画していたが、コロナ禍で中止となってしまった。	家族アンケートでは「コロナ禍の中、週1回でも面会できること」に感謝し、また「毎月送ってくださる手紙で生活の様子が変わり安心している」と報連相が確かなことが確認できます。またお正月には、職員が手伝うことで利用者は家族に年賀状を送っています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	コロナ禍により法人から会議の制限が設けられているが、部署会議だけは継続しており、そこで職員の意見や提案を聞く機会にしている。	初夏、年度末と年2回の個人面談をおこなうとともに、普段から職員と会話の時間を取るよう努めています。また、部署会議は事前にアンケートとることで的を得た内容として時間短縮を図り、ウイズコロナを実現させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	適宜行う面談の他、年に2回の面談を通じて職員と向き合い力量向上について話しあっている。また賞与や昇給についても全職員の評価が数字に落とし込まれ根拠があるものになっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍で縮小やリモート、紙面研修等、形は変わってきているが、法人内外の研修、事業所内勉強会、新人OJT、実務者研修、認知症介護基礎研修等、サポート体制は確立されている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍ということで、他事業所、他法人等、なるべく事業所外の人との接触は制限されているが、以前は他事業所支援、研修等は頻繁に行われていた。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居頂く前に必ずご自宅を訪問し、ご本人・ご家族のご意向や生活歴等を伺うようにしている。また使用している介護サービスがあれば、そこでのご様子なども確認するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居頂く前に必ずご自宅を訪問し、ご家族のご意向や不安な点は伺うようにしている。契約当日も十分な時間を取って対応するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回面談の段階でご家族・ご本人の様子やご意向を伺い、自分たち事業所で要望にお応えできるか否かを判断している。場合によってデイサービスやヘルパーを勧めたこともあった。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と馴染みの関係を構築できるよう努めている。日常生活におけるゴミ出し、洗濯物たみ、掃除なども一緒に行ったり、お誕生日等は皆で盛大に祝うなどして家族的な関係の構築に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で家族会や運営推進会議等は中止となっているが、毎月、写真付きのお手紙でご様子をお伝えしている。また些細なことでも、ご報告やご相談をするようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍ということで制限はあるが、時間や場所を限定し、ご友人、ご家族のご来所の際には面談時間を設けるようにしている。	晩酌を続ける人とはおつまみや酒類の買い物が常態化しています。面会については、事業所のパソコンに家族のラインが飛ぶように手配して「ラインでの面会」を可能としましたが実績には至らず、一部の家族からは「対策が徹底しているから安心」との声も入っています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様同士の関係性を考え、配席などを決めている。レクも孤立せず参加できるように配慮している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同法人の他グループホームに転居した際などは、その方の情報やケアのポイントなどを共有し、転居先と連携、穏やかに生活頂けるよう務めた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時のインテークだけでなく、日常生活の中で聞きとったことや、職員が感じたことなどは、プランに反映できるよう努めている。	本年度は新たな取組として「お客様勉強会」をスタートさせています。「その人の基本情報をもう一度再確認しよう」というもので、毎月1、2名の利用者向き合うことで、日常ケアにおける言葉かけが本人の気持ちに届くものとなるなど、目に見える手応えがあります。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今年度は新しい取組みとして「お客様勉強会」を年間通して実施。一人一人に対する理解を深めることが出来た。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送りや会議等を通じて、その方の現況を把握、共有できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員や看護師、医師やご家族の意見を伺い、プランに反映できるよう努めている。	カンファレンス前にモニタリング用紙を配付することで、利用者情報の厚みが増しています。また介護計画書2表のサービス内容に「ピアノ演奏など趣味活動ができる環境を整える」とあることに、本人の意向に沿った取組が日常にあることが伝わります。	介護計画書2表の担当者欄には介護職員以外の人の位置づけが入ることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活記録、医療面での記録、申し送り等、職員間の情報共有がしやすいよう日々検討している。なお、今年度から生活記録には電子記録を導入した。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍ということが、ある種良い方に動いた例であるが、施設内で可能な毎日の集団体操や季節感を感じて頂く取組みなどが以前より活発になってきた。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	隣のコンビニや向かいの花屋、薬局や酒屋など、近隣のお店には出かけることが多い。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の往診があり、日々の状況をフロアリーダーとデイサービスと兼務の看護師がドクターに伝え、その方の今の状態を細かく伝えるようにしている。	24時間365日対応の協力医で、看護師も夜間にも駆けつけてくださり、安心です。月2回の訪問診療にはリーダーと勤務看護師が立ちあい、双方向の連絡書面として「医療連携記録簿」を備えていて、医師の言葉も落とし込んでいます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職と往診医の看護師やデイサービスの看護師とは密に情報交換がなされており、臨機応変に対応、連携ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の相談員さんを窓口として、ケアマネ、管理者が日々の病院での様子を確認している。退院時には病院を訪問し、詳細について確認した上でプランに反映させている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には施設における看取りの指針を説明し、入居の段階ではあるが、看取りについて家族がどう考えているかの意思確認を行っている。実際に看取りケアの提供を行ってきた経験もある。	4月に1名、お見送りしています。家族の想いをくみ取り、衛生管理を徹底したうえで「1回の来所は2名まで」「本人の居室以外の出入りはしない」といったルールを定めて取組みました。「これが病院だったらシャットアウトだった」と、家族からも感謝されています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	コロナ禍ということもあり、極力外部の研修参加は見合わせているが、多くの職員が救急救命講習に参加している。往診医は夜間も対応して頂ける。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の総合訓練と水害、夜間想定訓練を実施しているが、あくまで想定であり、夜間帯に招集訓練を行ってはいない。備蓄は法人で用意されたものをストックしている。	新採者はオリエンテーション時に避難経路と通報装置の確認を済ませており、常にその日の勤務者の全てが把握できているようにしています。訓練では利用者もケガ人役となってもらうなど、事業所全体で「楽しく」取り組むことを旨としています。	コロナが終息したら、運営推進会議メンバーや近隣の応援者も招き、備蓄食品の試食会をおこない、有事の協力関係の礎とすることを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けや接遇の悪化は虐待の第一歩と重く捉え、厳しく指導している。ケアの指針となるこやまケアに基づき、配慮あるケアを心掛けている。	誕生日にはリクエストメニューとプレゼントが恒例の取組として定着しているほか、本年度の母の日には事業所からカーネーションとメッセージカードをプレゼントしています。「大切に思っています」と伝えるプロセスを通じて職員の思いやりも育っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人にこれからの動きをお伝えしてから行動を共にするようにしている。また日々の会話の中からやりたいこと、したいことを汲みとり、ケアに活かすようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や就寝時間、日中の過ごし方など、基本的にはご本人のペースに合わせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節にあった洋服を着て頂くよう、衣替えなどのご家族に連絡し、服を入れ替えてもらうこともある。誕生日プレゼントとして事業所から衣類をプレゼントすることもある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	平日の昼・夕食はデイサービスの厨房から提供しており、お客様からは好評である。主に食後の片付けをお客様と一緒にやっている。	これまでのランチだけから朝夕も階下のデイサービスの栄養課が調理する献立を提供するようになり、目に見えて摂取量が増えたことは嬉しい限りです。納涼際にはたこ焼きをほおぼる姿や、誕生日にビールで満面の笑顔となる人もいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は気をつけて記録している。デイサービスからの食事は味も見た目も好評で、以前よりも食事量が増えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施している。歯ブラシ、マウスウォッシュ、口腔スポンジ等、その方の状態に合わせて口腔ケアを実施している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	布パン利用者の方は、ほぼご自身の管理で問題ないが、その方以外の方々は定時の声掛けや、排泄サインを見極め、極力トイレでの「当たり前の排泄」を心掛けている。	「なるべくトイレ」を励行、16名は自発的に、あるいは誘導にてトイレでの排泄が叶っています。平均介護度は2.3ですが、認知症の進行から手や脚がでて拒否が強くなっていたり、失認で手順が不確かとなった2名の利用者には職員2人で介助しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防として水分摂取と運動を心掛けている。薬が処方されている方については医師、看護師からの指示を徹底している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間帯は午後の時間帯ということで決めさせて頂いているが、その中で入浴の希望の有無に合わせてお誘いしている。企画風呂なども提供することがある。	お茶風呂、花風呂、アロエ風呂、みかん風呂と日替わりで変わり湯を提供する企画にチャレンジしています。「たのしいね」「おもしろいね」「(みかん)おいしそうねえ」と、利用者から発語と笑顔がひきだせて大成功の企画となりました。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝をする方、就寝時間、起床時間等、その方の体調、ペースに合わせた睡眠が確保できるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局との連携がある為、一包化や情報提供がしっかりなされている。服薬事故についても職員の意識やマニュアルが徹底されてきておりなくなってきた。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ごみ捨て、掃除、食器拭き、洗濯など、日常生活の中での役割をもって頂くようにしている。また飲酒や手芸等、その方の好きなことは可能な限り続けて行けるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍ということで積極的な外出外食は行っていないが、気分転換のドライブ、密を避けての初詣など、制限をしながら実施している。日常では近隣のお店への買い物や、隣の畑を見る、敷地内の花をみるなど、外の空気を吸うことを大切にしている。	「人と交わらない方法で季節を感じる機会を」と、日曜日ドライブ企画は「降りないドライブ」で推進しています。山原堤や大沢川周辺のドライブで桜を堪能したり、秋葉山神社へのお参り、由比の学習センターで海原を眺めつつ小休止と、行き先も日々開拓しています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	法人方針としてお客様の現金のお預かりは禁止されている為、買い物の際は事業所が立て替える形になる。その際に極力ご自身で財布からお金を払ってお釣りを受け取るという作業はして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を望まれる場合は都度支援している。ただ、時代なのか、携帯電話をお持ちの方もいらっしゃる、お好きなタイミングでかけている方もいらっしゃる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアには四季を感じて頂けるような飾り付けを意識している。また自尊心を満たすことが出来ればとご本人の書いた習字なども掲示している。	職員の入れ替えでデイサービス経験のある職員がこの1年で増え、季節の壁画や七夕飾り、お正月には神社など、クラフト作品とそこからの遊びが生れ、利用者の楽しみに実っています。また俳句や習字など以前からの趣味の継続も変わらずリビングに掲示しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアには食事席の他、ソファが2か所に置いてある為、皆さん思い思いの場所でくつろいでいる姿を見かけることができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具などの持ち込みは是非お願いしている。先日入居された方は居室内に旦那様の仏壇コーナーを作られ、毎朝手を合わせていらっしゃる。	伴侶が亡くなったばかりの人は仏壇が大きすぎて持ち込めないため、位牌を置いて朝晩拜んでいます。冷蔵庫やテレビなどの電化製品に囲まれて暮らす人もいますが、此処1、2年入居の利用者は携帯電話の持ち込みが増えています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その方の残存能力に合わせた生活ができるよう、リハビリ職員の評価も含め、移動手段、居室環境、導線確保等精査している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274202528		
法人名	医療法人財団 百葉の会		
事業所名	グループホーム百葉清水浪漫館 3階		
所在地	静岡県静岡市清水区高橋2丁目9番15号		
自己評価作成日	令和4年3月4日	評価結果市町村受理日	令和4年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajikokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&jiyosyoCd=2274202528-00&serviceCd=320&type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和4年3月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

湖山医療福祉グループ理念である【自らが受けたいと思う医療と福祉の創造】を実現すべく、日々お客様と向き合っています。一向に終息をみないコロナウィルス感染症に対しては、感染防止策として様々な制限を設けている関係で、お客様にはご不便をおかけしているかと思えます。しかし、その中でもすこしでも季節感を味わって頂けるよう、職員も試行錯誤で企画を提供している部分は是非見て頂きたいところです。朝夕の食事もデイサービスの栄養課が調理するものを提供するようになってから、各段に皆様の食事摂取量が増えたことは、美味しい食事である何よりのお褒めの言葉と捉えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

誕生日にはリクエストメニューでお祝いするとともに、向かいの花屋さんで好みの花を選んでもらってプレゼントするといった取組が定着するとともに、「誕生会」ではなく「誕生日会」で一人ひとりの向けた企画としていることが、理念「自らが受けたいと思う医療と福祉の創造」を体現しているといえます。家族から届いた大量の梅では、みがく人、ヘタを取る人、楊枝で穴をあける人と、皆でそれぞれの役割を果たしながら梅ジュースを作り、七夕では生竹に利用者の願いを吊るして七夕ランチ(卵や野菜を使って星や天の川、笹を摸したもの)と水ようかんを味わうなど、外のコロナ禍など嘘のように季節を感じる穏やかな日々が流れています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼にて、理念とこやまケア行動指針の唱和を実施。こやまケア行動指針については毎月1箇条をピックアップし、様々な場所に掲示し、月末に振り返りのアンケートを実施している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度もコロナ禍ということで運営推進会議には地域の方をお招きしていない。しかし、少しずつではあるが、近所のお店への買い物や、人が密にならない場所などを選んで外出する機会を増やしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	併設のデイサービスのお客様から入居相談や緊急短期入所のお問い合わせなどは増えてきている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度もコロナ禍ということで運営推進会議には地域の方をお招きしていないが、日常報告や事業所としての取組み等、細かく報告させて頂いてきた。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	書類提出や相談事は必ず行政の窓口を訪問するようにしてきた。担当の方にも所長の名前を覚えて頂き、逆に制度に関する質問のお電話を頂いた経験もある。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯という意味で20:00以降は玄関を施錠している。研修や勉強会を通じて、身体拘束をしないケアを理解し実践している。事業所として身体拘束0宣言を掲げている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修、勉強会等で学ぶ機会を設けている。また、少し口調に疑問を感じる職員がいれば都度面談を取って早期是正に取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に成年後見人の方とお客様の件で関わることは多々あるが、自立支援事業や後見人制度を学ぶ機会は設けられていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約関連は全て所長が行い、不安や疑問が残らない契約を心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関口にあるご意見箱と年に1回の顧客アンケートでご意見・ご要望を頂くようにしている。家族会も企画していたが、コロナ禍で中止となってしまった。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	コロナ禍により法人から会議の制限が設けられているが、部署会議だけは継続しており、そこで職員の意見や提案を聞く機会にしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	適宜行う面談の他、年に2回の面談を通じて職員と向き合い力量向上について話しあっている。また賞与や昇給についても全職員の評価が数字に落とし込まれ根拠があるものになっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍で縮小やリモート、紙面研修等、形は変わってきているが、法人内外の研修、事業所内勉強会、新人OJT、実務者研修、認知症介護基礎研修等、サポート体制は確立されている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍ということで、他事業所、他法人等、なるべく事業所外の人との接触は制限されているが、以前は他事業所支援、研修等は頻繁に行われていた。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居頂く前に必ずご自宅を訪問し、ご本人・ご家族のご意向や生活歴等を伺うようにしている。また使用している介護サービスがあれば、そこでの様子なども確認するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居頂く前に必ずご自宅を訪問し、ご家族のご意向や不安な点は伺うようにしている。契約当日も十分な時間を取って対応するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回面談の段階でご家族・ご本人の様子やご意向を伺い、自分たち事業所で要望にお応えできるか否かを判断している。場合によってデイサービスやヘルパーを勧めたこともあった。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と馴染みの関係を構築できるよう努めている。日常生活におけるゴミ出し、洗濯物たたみ、掃除なども一緒に行ったり、お誕生日等は皆で盛大に祝うなどして家族的な関係の構築に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で家族会や運営推進会議等は中止となっているが、毎月、写真付きのお手紙でご様子をお伝えしている。また些細なことでも、ご報告やご相談をするようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍ということで制限はあるが、時間や場所を限定し、ご友人、ご家族のご来所の際には面談時間を設けるようにしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様同士の関係性を考え、配席などを決めている。レクも孤立せず参加できるように配慮している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同法人の他グループホームに転居した際などは、その方の情報やケアのポイントなどを共有し、転居先と連携、穏やかに生活頂けるよう務めた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時のインテークだけでなく、日常の生活の中で聞きとったことや、職員が感じたことなどは、プランに反映できるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今年度は新しい取り組みとして「お客様勉強会」を年間通して実施。一人一人に対する理解を深めることが出来た。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送りや会議等を通じて、その方の現況を把握、共有できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員や看護師、医師やご家族の意見を伺い、プランに反映できるよう努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活記録、医療面での記録、申し送り等、職員間の情報共有がしやすいよう日々検討している。なお、今年度から生活記録には電子記録を導入した。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍ということが、ある種良い方に動いた例であるが、施設内で可能な毎日の集団体操や季節感を感じて頂く取り組みなどが以前より活発になってきた。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	隣のコンビニや向かいの花屋、薬局や酒屋など、近隣のお店には出かけることが多い。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の往診があり、日々の状況をフロアリーダーとデイサービス看護師がドクターに伝え、その方の今の状態を細かく伝えるようにしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職と往診医の看護師やデイサービスの看護師とは密に情報交換がなされており、臨機応変に対応、連携ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の相談員さんを窓口として、ケアマネ、管理者が日々の病院での様子を確認している。退院時には病院を訪問し、詳細について確認した上でプランに反映させている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には施設における看取りの指針を説明し、入居の段階ではあるが、看取りについて家族がどう考えているかの意思確認を行っている。実際に看取りケアの提供を行ってきた経験もある。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	コロナ禍ということもあり、極力外部の研修参加は見合わせているが、多くの職員が救急救命講習に参加している。往診医は夜間も対応して頂ける。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の総合訓練と水害、夜間想定訓練を実施しているが、あくまで想定であり、夜間帯に招集訓練を行ってはいない。備蓄は法人で用意されたものをストックしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けや接遇の悪化は虐待の第一歩と重く捉え、厳しく指導している。ケアの指針となるこやまケアに基づき、配慮あるケアを心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人にこれからの動きをお伝えしてから行動を共にするようにしている。また日々の会話の中からやりたいこと、したいことを汲みとり、ケアに活かすようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や就寝時間、日中の過ごし方など、基本的にはご本人のペースに合わせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節にあった洋服を着て頂くよう、衣替えなどはご家族に連絡し、服を入れ替えてもらうこともある。誕生日プレゼントとして事業所から衣類をプレゼントすることもある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	平日の昼・夕食はデイサービスの厨房から提供しており、お客様からは好評である。主に食後の片付けをお客様と一緒にしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は気をつけて記録している。デイサービスからの食事は味も見た目も好評で、以前よりも食事量が増えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施している。歯ブラシ、マウスウォッシュ、口腔スポンジ等、その方の状態に合わせて口腔ケアを実施している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	布パン利用者の方は、ほぼご自身の管理で問題ないが、その方以外の方々は定時の声掛けや、排泄サインを見極め、極力トイレでの「当たり前」の排泄を心掛けている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防として水分摂取と運動を心掛けている。薬が処方されている方については医師、看護師からの指示を徹底している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間帯は午後の時間帯ということで決めさせて頂いているが、その中で入浴の希望の有無に合わせてお誘いしている。企画風呂なども提供することがある。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝をする方、就寝時間、起床時間等、その方の体調、ペースに合わせた睡眠が確保できるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局との連携がある為、一包化や情報提供がしっかりなされている。服薬事故についても職員の意識やマニュアルが徹底されてきておりなくなってきた。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ごみ捨て、掃除、食器拭き、洗濯など、日常生活の中での役割をもって頂くようにしている。また飲酒や手芸等、その方の好きなことは可能な限り続けて行けるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍ということで積極的な外出外食は行っていないが、気分転換のドライブ、密を避けての初詣など、制限をしながら実施している。日常では近隣のお店への買い物や、隣の畑を見る、敷地内の花をみるなど、外の空気を吸うことを大切にしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	法人方針としてお客様の現金のお預かりは禁止されている為、買い物の際は事業所が立て替える形になる。その際に極力ご自身で財布からお金を払ってお釣りを受け取るという作業はして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を望まれる場合は都度支援している。ただ、時代なのか、携帯電話をお持ちの方もいらっしゃる、好きなタイミングでかけている方もいらっしゃる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアには四季を感じて頂けるような飾り付けを意識している。また自尊心を満たすことが出来ればとご本人の書いた習字なども掲示している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアには食事席の他、ソファが2か所に置いてある為、皆さん思い思いの場所でくつろいでいる姿を見かけることができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具などの持ち込みは是非お願いしている。先日入居された方は居室内に旦那様の仏壇コーナーを作られ、毎朝手を合わせていらっしゃる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その方の残存能力に合わせた生活ができるよう、リハビリ職員の評価も含め、移動手段、居室環境、導線確保等精査している。		